不二製油グループの価値観とあゆみ

挑戦と革新

「南方にコプラがある。ヤシ油を目指せ」
「大豆をやるならたん白までゆけ」

菊池 土用三

西村政太郎が創業当時に協力を得た油脂の権威者 菊池氏の言葉です。油脂については、当時日本ではほぼ扱われていなかった南方系油脂を、大豆については先発メーカーが手掛ける油脂の抽出・販売ではなく、大豆に含まれるタンパク質を主体とした事業を展開することを進言しました。

日本初 世界初のR&D技術

差別化された原料を高度利用していく中で、数多くの日本初・世界初の技術や製品を創出しました。

- 1955年 日本初 ココアバター代用脂
- 1963年 日本初 洋生菓子用チョコレート
- 1968年 世界初 高脂肪クリームの無菌充填生産
- 1980年 世界初 酵素エステル交換技術を用いたチョコレート用油脂の商業生産
- 1980年 日本初 植物性チーズ様素材

人のために働く

「原料面、技術面、製品面で独自性を発揮する」
「単純に原料を分けるだけでは、付加価値は低い。加工してさらに加工して末端まで追求し（中略）深く掘るには、自然に横にも広げていかないと未来はない」
「我々の新素材は代用品ではなくて、それ自身が主人公にならないといけない」

2代目社長
西村 政太郎

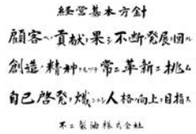
実質的な創業者である西村政太郎の思想が独自性、垂直経営、創造性、といった当社の経営思想として今に至るまで貫かれています。

「孫の代には分かる」

1960年当時、赤字続きの大豆事業を続ける意義を問われ、西村政太郎が役員にいった言葉。将来的に必ず人のためになるという信念で続けてきた事業は、未来に向けた価値提供の基盤となっています。

安全と品質、環境

「顧客への貢献を果たし不断の発展を図る」



1960年に制定された5ヵ条からなる経営基本方針は、1981年に3ヵ条に、2015年に不二製油グループ憲法として再編され、今に受け継がれています。

「油脂とたん白を基礎原料とした国際性をもつ食品企業」

阪南工場建設時、企業目標として掲げられ、以降受け継がれてきました。1982年新たに語頭に「植物性の」の語を付与し、さらに企業姿勢を明確にしました。

1982年に制定したロゴ
（2010年にマイナーチェンジ）

←油脂…不断の発展を図る
←たん白…常に革新に挑む
←世界…人格の向上を目指す

環境配慮を徹底した阪南工場

日本で公害対策基本法が制定された2年後の1969年に阪南工場が操業開始。徹底した環境対策を施し、より一層環境への意識が根づいていきました。

スピードとタイミング

グループ本社制へ移行（2015年10月）

「その地にしっかりと根付き、地道に信頼を得ていくことが大切」

グローバルな企業成長のためには、現地に市場を確保する以外に成功の道はないと考え、海外市場への展開を加速し、現地に根差したビジネスの展開のため、多くのパートナー戦略に取り組んできました。現在も、当社だけでは解決が困難な社会課題への対応などにおいて、さまざまなステークホルダーと共創活動に取り組んでいます。

グローバルな知の融合の拠点

2015年にアジアR&Dセンターを、2016年にグローバル内外の知を融合する中核として不二サイエンスイノベーションセンターを開設。グローバルに市場ニーズを捉え、挑戦と革新を推進する拠点として重要な役割を担っています。

顧客との共創

1977年、「食」の夢を創造する場という基本テーマのもと、フジサニープラザを東京に開設しました。人々のニーズや嗜好を発見し、共同開発を行う拠点として、現在では世界8ヵ所に設けています。

フジサニープラザでの講義風景

「私たち不二製油は社会への貢献によってのみ繁栄する」

西村政太郎より、基本思想として語られた言葉。不二製油の貢献とは、消費者に喜びを与える製品の創造であると説きました。

サステナブル経営の推進

2004年にRSPO*に加盟、2010年にCSR推進室（当時）を設置。2011年発表の中期経営計画「Global& Quality 2013」では、「サステナブル経営の推進」を基本方針に掲げ、本業を通じた食の課題解決への重点的な取り組みを開始しました。また、2013年に国連グローバル・コンパクトに不二製油グループとして賛同、署名し、人権や地球環境問題へ取り組む姿勢をさらに強化しています。

* 持続可能なパーム油のための円卓会議

安全は全てに優先する

1991年12月22日、溶剤抽出工場で8名の尊い命が失われる爆発事故が発生しました。

「安全」が事業の大前提であることを再認識し、今日まで語り継いでいます。

「安全品質環境基本方針」の制定

品質・食品安全の徹底

1990年代半ば、当時の食品企業としてはいち早くISO9001を取得。以降現在もISOシリーズをはじめとしたさまざまな国際認証の取得をグループ各社で進めています。

環境問題への取り組み

1999年に環境基本方針を発表。グループ全体での環境保全への取り組みを宣言しました。また、2010年には「環境ビジョン2020」を策定し中長期な取り組みを開始しました。

これらの取り組みを背景に、2015年に、国内外の全グループ会社共通の目指す方向を定めた「安全品質環境基本方針」を制定し、全社員共通の価値観のもと取り組みを推進しています。

グローバルな事業拡大と経営基盤の整備

- グループ憲法 — 不二製油グループ憲法・グループガバナンス ⇨ P1・P92
- チョコレート事業のM&A — CSO SECTION ⇨ P62
- エリア統括会社の設置 — CSOセクション・グループガバナンス ⇨ P52・P93
- コーポレートガバナンス向上の取り組み — コーポレートガバナンス ⇨ P85
- 財務規律の強化と資本効率の向上 — CFO SECTION ⇨ P42
- ダイバーシティ、エクイティ＆インクルージョンの実現 — CAO SECTION ⇨ P80

サステナビリティへの取り組み強化

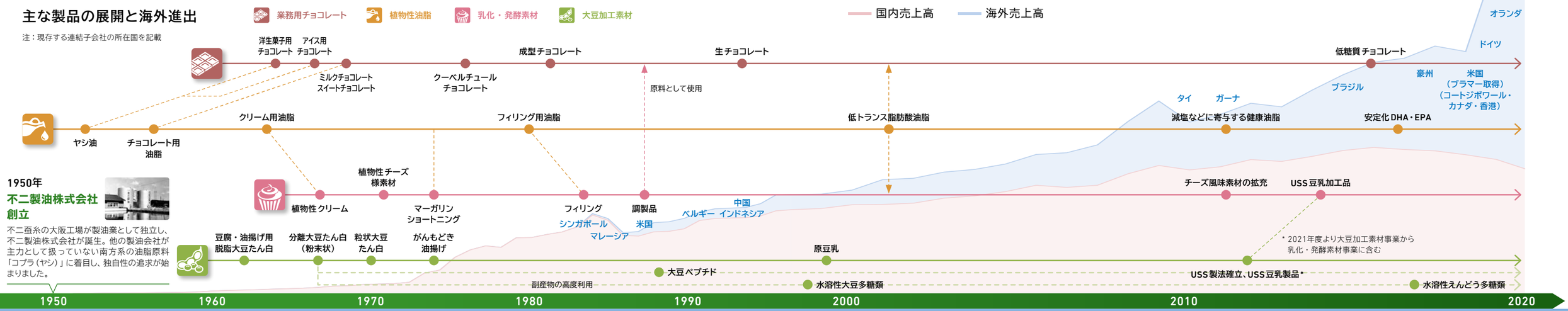
- ESG委員会の設置 — ESGマテリアリティ ⇨ P38
- C“ESG”Oの設置 — C“ESG”Oメッセージ ⇨ P76
- 人権リスクの低減 — 人権 ⇨ P77
- 主原料のサステナブル調達方針と中長期目標の公表 — 主原料のサステナブル調達 ⇨ P20
- 「環境ビジョン2030」 — 環境 ⇨ P79

事業ポートフォリオの方向性

- Plant-Based Food Solutions — 提供価値と事業機会 ⇨ P30
- 世界第3位の業務用チョコレートメーカーに — CSO SECTION ⇨ P52
- 将来を支える新規技術の開発 — CTO SECTION ⇨ P75

主な製品の展開と海外進出

注：現存する連結子会社の所在国を記載



1950年 不二製油株式会社創立

不二蚕糸の大阪工場が製油業として独立し、不二製油株式会社が誕生。他の製油会社が主力として扱っていない南方系の油脂原料「コプラ（ヤシ）」に着目し、独自性の追求が始まりました。

海外進出の狙い

注：日本向け原料供給のため1973年にマレーシア、1974年にフィリピンに進出したが、現地国策などにより早期撤退

- 現地での開発・生産による市場ニーズの把握を重視
- チョコレート用油脂の世界展開

- 需要の拡大が見込めるエリアへ進出
- 油脂から、製菓・製パン素材へと加工度を高めた製品展開の加速

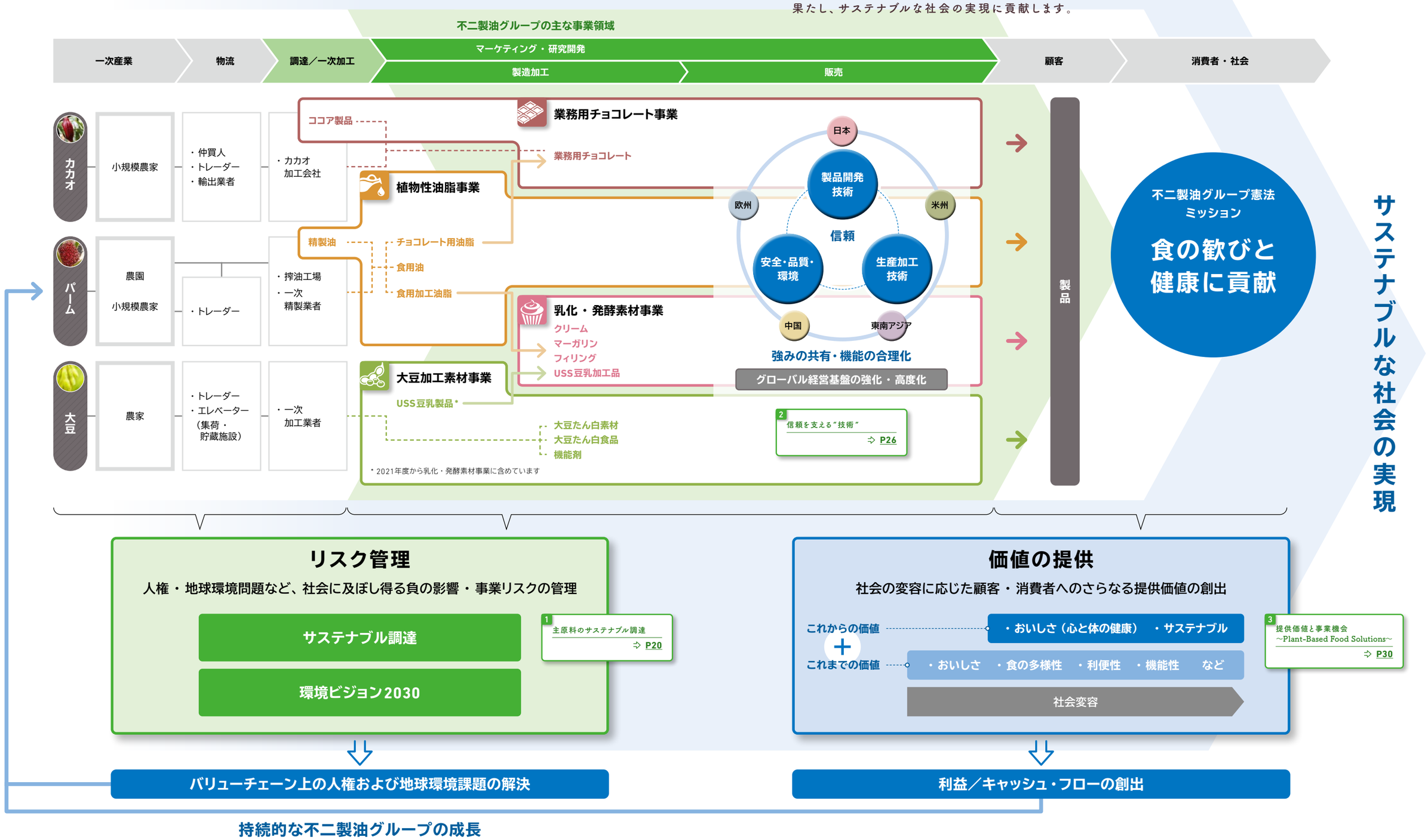
- 機能剤の需要拡大を見込み、生産拠点を配置
- 東南アジアにおける製菓・製パン素材の拡大

- 業務用チョコレート事業のエリア拡大
- 地域統括会社によるエリア軸の強化
- サステナブル調達への注力、持続的な成長

不二製油グループの価値創造プロセス

不二製油グループは、バリューチェーン上の人権問題・地球環境問題など、社会への負の影響を及ぼし得るリスクについて管理した製品によって、社会の変容に応じた価値を顧客や消費者に提供することを目指しています。製品開発・事業開発は、Plant-Based Food Solutionsというコンセプトのもと進め、そうしたビジネスを拡大するため、グローバル経営基盤の強化・高度化に注力しています。また、事業活動によって獲得した利益やキャッシュ・フローは、食のバリューチェーン全体のサステナビリティの向上に資する当社グループの持続的な成長のために再投資しています。この価値創造プロセスの循環を通し、私たちは不二製油グループのミッションを果たし、サステナブルな社会の実現に貢献します。

Plant-Based Food Solutions 植物性食品素材で社会課題解決



1 主原料のサステナブル調達

リソースを確保し、幅広いマルチステークホルダーに対する責任に応えていきます

グローバルSCMグループ
シニアマネージャー
渡辺 修

投資家、従業員、顧客といったステークホルダーのみならず、生産地の地域社会やNGOなど、これまで以上に幅広いマルチステークホルダーに対する責任が求められる新たな時代になったことを痛感しています。また、それぞれの原料に対する国際認証の取得にとどまらず、より透明性の高いトレーサビリティを確保すること、サプライチェーン上の社会課題を回避するのではなく解決していくことが求められていることを認識しています。

不二製油グループの主な原料であるパームやカカオには、人権や地球環境などの社会課題がありますが、それぞれの原料で課題の成り立ちや解決に向けたアプローチに違いがあります。パーム油では、2016年の方針策定後からNPOと連携しながら活動の底上げを図り、2020年度は農園企業を中心とした取り組みを進めることができました。一方でカカオは、小規模農家が大多数を占めていることや日本から産地までの地理的な距離の遠さに加え、コロナ禍により予定していた現場での問題把握が困難になるなど、複合的な要因により進捗が芳しくありませんでした。

2020年度にはパーム油とカカオ豆の調達に関する新たなKPIを設定しました。それぞれのアプローチを実行していくことで最終目標の達成につながると信じています。

また、2021年6月に大豆とシアカーネルにおける原料調達方針も公表しました。サプライチェーンにおける問題点などの把握を進め、具体的な取り組みに着手していきます。

これら主原料のサステナブル調達については、最高経営戦略責任者（CSO）の管掌のもとで取り組みを推進しています。2020年度には、サステナブル調達コミットメントの実効性向上を目指し、グローバルサステナブル調達委員会を設立しました。各原料・産地における個別の事情の把握、グループとして広範囲にサステナブルに取り組んでいけるリソースの確保を進め、施策を推進します。これらは、地道かつ時間もかかる活動ですが、サステナブルな調達活動の継続には不可欠な取り組みです。マルチステークホルダーの理解を得ながら進めていきたいと考えています。

サプライヤー行動規範の策定

2021年4月、グループ共通の調達に関する包括的な考え方を全てのサプライヤーにお伝えすることを目的に、既存の各ガイドライン・方針の上位方針となる「サプライヤー行動規範」を策定しました。人権、食の安全・品質、環境保全をはじめとした一連の原則の遵守、および本行動規範の違反を特定し改善するための予防策や救済策を講じることを全てのサプライヤーに求めます。

グローバルサステナブル調達委員会

2020年9月、サステナブル調達コミットメントの実効性向上を目指して設置し、CSOの管掌のもとで取り組みを推進しています。同委員会は1ヵ月に一度開催され、下部組織として原料（パーム油、カカオ、大豆、シアカーネル）ごとに、各事業エリアから選出されたメンバーで構成される分科会を設置し、それぞれに特化した議論を行っています。

サプライチェーン上の労働者の人権に対する取り組みの強化

当社第2回人権インパクトアセスメント（→P77）において、サプライチェーン上の労働者の人権リスクが指摘されました。今後は、さらに農園における労働環境、労働安全衛生、非差別・機会均等、強制労働・児童労働、土地の権利に焦点を当て、サプライヤー行動規範の周知徹底、および各原料別に関する取り組みの着実な推進と改善を実施します。加えて、国際的な法規制動向をタイムリーに把握し、サプライチェーン上の迅速な対応を行っていきます。

将来性のあるサプライチェーンの確保を目指して

担当者の“声”

フジ ヨーロッパ アフリカ
Senior Manager ESG and Leader
Sustainable Development Team
Carmen Alvarado Ascencio

当社グループは、自社のサプライチェーン上の人権侵害発生リスクを深刻に捉えています。サプライヤーの皆様には、我々同様の人権配慮の推進を期待していますが、サプライチェーンのグローバル化・複雑化が原料生産地までのトレーサビリティ確保における大きな課題です。トレーサビリティは、リスクの同定、改善の実効性評価や人権侵害の軽減に不可欠であり、欧州チームでも主原料の責任ある調達方針を進化させるため、トレーサビリティの目標やソーシャルインパクト評価に取り組んでいます。業界団体との連携やステークホルダーとの積極的かつ建設的対話を進め、さまざまな問題や、EU環境・人権に関するデュー・ディリジェンス法など今後の法規制への耐性を考慮し、将来性のあるサプライチェーン確保を目指します。

原料		調達における社会課題	中長期目標	KPI 2030年	KPI 2025年	2020年度実績
パーム油	地球環境	• 森林破壊 • 泥炭地開発	森林破壊ゼロ 泥炭地開発ゼロ 搾取ゼロ	**TTP*1 100%**	**TTP 75%**	71%
	人権	• 強制労働／児童労働 • 先住民／地域住民／労働者からの搾取		**労働環境改善プログラム適用率：100%（全直接サプライヤー）**	**労働環境改善プログラム適用率：100% （パルマジュ エディブル オイル（マレーシア）*2の全サプライヤー）**	10% （パルマジュ エディブル オイル（マレーシア）の全サプライヤー）
カカオ	地球環境	• 森林破壊 • 気候変動による生産地への影響 • 生物多様性の喪失	森林再生 児童労働撤廃	**植樹100万本*3**	**植樹50万本**	1万本
	人権	• 児童労働 • 農家の貧困		**児童労働撤廃**	**WFCL*4ゼロ**	ブラマーがカカオ豆を直接購入しているカカオ農家の83%についてGPSを使ったマッピングを実施 ブラマーがカカオ豆を直接購入している協同組合の100%にCLMRS*5を構築
大豆	地球環境	• 森林破壊 • 生物多様性の喪失	森林破壊ゼロ 搾取ゼロ	**コミュニティレベルまでのトレーサビリティ確保、 またはRTRS*6認証品もしくはRTRS認証に準じた その他認証品での調達率：100%**	**第一集荷場所までのトレーサビリティ確保、 またはRTRS認証品もしくはRTRS認証に準じた その他認証品での調達率：100%**	N/A
	人権	• 先住民／地域住民／労働者からの搾取				
シアカーネル	地球環境	• 緑地の消失	森林保全 女性のエンパワメント支援	**植樹6,000本／年*7**	**植樹6,000本／年**	N/A
	人権	• 農家の貧困		**農村レベルのトレーサビリティ：75%**	**50%**	
				・協同組合まで追跡可能なシアカーネル直接調達比率：75% ・そのうち、Tebma-Kandu協同組合からの調達比率：50% など	**・Tebma-Kandu協同組合からの調達比率：30%*8 など**	

大豆およびシアカーネルのサステナブル調達の取り組みの詳細については、サステナビリティレポート2021をご参照ください。
大豆のサステナブル調達 → https://www.fujioilholdings.com/sustainability/social/soy/
シアカーネルのサステナブル調達 → https://www.fujioilholdings.com/sustainability/social/shea_kernel/

*1 TTP：Traceability to Plantation（農園までのトレーサビリティ）
*2 パルマジュ エディブル オイル（マレーシア）：不二製油グループ本社の100%子会社の油脂製造拠点
*3 さまざまな種類の緑陰樹の苗木を2021年から2030年までの10年間で100万本植樹予定
*4 WFCL：Worst Forms of Child Labour（最悪の形態の児童労働）
*5 CLMRS：Child Labour Monitoring & Remediation System（児童労働監視改善システム）
*6 RTRS：Round Table on Responsible Soy Association（責任ある大豆に関する円卓会議）
*7 主にシアの木の苗木を2021年から年間6,000本植樹予定
*8 2021年、2022年、2023年はそれぞれ10%、15%、20%をKPIに設定

パーム油のサステナブル調達

パーム油産業に関する社会課題

パーム油は、東南アジアなどの熱帯地域に植生するアブラヤシから取れる油です。ほかの植物性油脂と比べて加工しやすく単位面積当たりの収穫量が大きいため、食品から化学品まで幅広く使われており、世界の植物性油脂原料の中で最大の生産量となっていますが、農園開発に起因する森林破壊や、強制労働・児童労働などの人権侵害が危惧されています。

グループ調達方針と中長期目標

2016年3月公表の「責任あるパーム油調達方針」で、人々と地球環境を尊重するサプライヤーから責任ある方法で生産されたパーム油を調達することを約束しています。

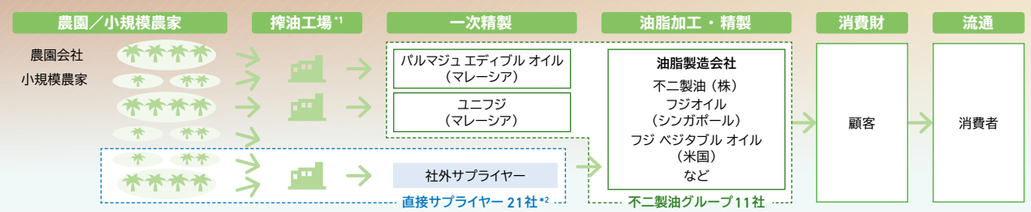
コミットメント

NDPE*の推進

- 保護価値の高い森林、炭素貯蔵量の多い森林および泥炭湿地林における森林破壊ゼロ
- 泥炭地における新規開発ゼロ
- 先住民、地域住民、労働者の搾取ゼロ

* NDPE：No Deforestation, No Peatland development, and No Exploitation（森林破壊ゼロ、泥炭地開発ゼロ、搾取ゼロ）

パーム油のサプライチェーンと不二製油グループのアプローチ



*1 2020年7月～12月の搾油工場リスト（ミルリスト）には、約1,400軒超の搾油工場を登録しています。
*2 2020年12月末時点

無秩序な森林破壊や人権問題を改善するためには、現地政府やNGO・NPOとともに地域の搾油工場や農園と対話し、森林保全の意義を共有していくことが必要です。そのために、まずは農園までのトレーサビリティ（TTP）を高めることで当社グループの購入・使用パーム油の生産地域を特定した上で、①～⑤のアプローチ手法を取り入れることで、パーム農園開発による森林破壊・人権問題を防止する仕組みを作ります。

社会課題	課題解決アプローチ	取り組み概要	対象地域
地球環境	① 衛星写真によるモニタリング	衛星写真情報の活用による、当社サプライチェーン上の森林破壊の特定、モニタリング、検証	インドネシア
人権	② 労働環境改善プログラム（LTP*）の適用	1対1の対面式で、サプライヤーの事業や供給拠点における人権リスクを低減するためのサプライヤーのキャパシティ・ビルディングを支援する労働慣行改善プログラム。パルマジュ エディブル オイルの直接サプライヤーに順次導入	マレーシア
地球環境 人権	③ ランドスケープイニシアチブ	農園開発の脅威にさらされている、インドネシアの貴重な熱帯雨林の2地域を対象に、地元政府・NGO・企業・農園等のマルチステークホルダーが連携し、活動展開	インドネシア・アチェ州
	④ 認証油の拡大	⇨ PICKUP	グローバル
	⑤ グリーバンスメカニズム	⇨ PICKUP	グローバル

* LTP: Labour Transformation Programme

取り組みに関する課題認識

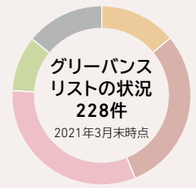
- 農園までのトレーサビリティ（TTP）は、サプライチェーンの複雑さや情報の機密性などにより改善に時間を要することが予想される。
- パームの生産においては小規模農家の割合が高く、今後も森林伐採のルールや、土地の権利、雇用されている労働者の権利など取りかからなければならない課題が多い。
- サプライチェーン改善への取り組みに配分するリソース確保に努めるとともに、問題意識を持ち続けていくことが重要である。

「パーム油のサステナブル調達」についての取り組みの詳細は、サステナビリティレポート2021をご参照ください。
⇨ https://www.fujioilholdings.com/sustainability/social/palm_oil/

PICKUP

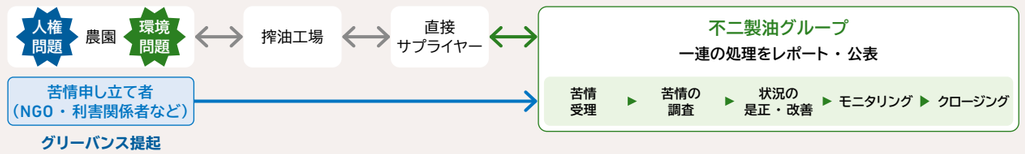
グリーバンスメカニズム

グリーバンスメカニズムは、ステークホルダーから当社グループに提起されたサプライチェーン上の環境・人権問題について、直接サプライヤーとのエンゲージメントを行い、問題を改善する仕組みです。当社グループおよび当社グループの直接・間接サプライヤーに対する苦情に対処するための枠組みとして、メカニズムを提供するために改善を進めています。2020年度は対象範囲を拡大し、グリーバンスを受けた企業だけでなく、その親グループが運営するほかのパーム油企業も含め、グループレベルでのグリーバンス対応を行うことを可能にしました。また、提起された全てのグリーバンスの対処をさらに強化するために、「サスペンション＆エンゲージメントプロトコル（一時停止・積極的関与手順）」を導入しました。



取り組み完了	14%
取り組み完了後、モニタリング	30%
サプライヤーと協働しながら問題解決の取り組みを推進／取引再開に向けた改善状況のモニタリング	32%
取引や調達の一時停止、取引の一時停止後、あるいは一時停止に向けたエンゲージメント	10%
未購入	14%

グリーバンス仕組み



持続可能なパーム油生産の拡大

NDPEの実現に向け、業界ではトレーサビリティを確保し、人権侵害のリスクを最小限に抑えるシンプルなサプライチェーン*1を確保する傾向にあります。ユニフジは、そのベンチマークとなる会社ですが、サステナブルな製品需要の高まりにつれ、2021年度には生産能力が上限に達する見通しです。そのためフジオイル アジアは、単一の工場と農園に高品質なパームを供給できるほかのプレーヤーとの協業を開始しています。その油脂は、IPグレード*2としてパルマジュに納入され、当社グループのネットワークを通じて世界中の主要顧客に供給されます。特に米国では持続可能なパームへの関心が高まっており、今回の戦略的パートナーシップは、顧客へのサプライチェーンに付加価値を与え、ビジネスを成長させるために不可欠なものです。

*1 シンプルなサプライチェーン：最終顧客までに関与する農園数や工場の数が少なく、トレーサブルなサプライチェーン
*2 IPグレード：RSPOの認証モデルのうち、最終製品に至るまで非認証のパーム油の供給や流通から完全に切り離された商品に与えられる認証

ステークホルダーとの対話と市場創造

顧客との共創

海外ではユニフジのシンプルなサプライチェーンと提供製品の品質が高く評価され、MNC（マルチナショナルカンパニー）の顧客の1社から、ベストサプライヤーとして表彰されました。日本においても、サステナブルパームの需要は急速に拡大しています。顧客に対するパームのサステナビリティに関するレクチャーや農園視察、認証油導入のためのサポートなど、国内市場のサステナビリティの取り組みを牽引しています。

消費者・市場への働きかけ

The Consumer Goods Forum（TCGF）*1など、多数の業界団体に参画・加盟し、業界で協働した活動を行っています。また、次代を担う学生への教育が肝要であると考え、一般社団法人Think the Earthによる、「SDGs for School*2」の出前授業に賛同し、その授業で使用するチョコレートの協賛を通して、学生に持続可能なパーム油、ひいては持続可能な社会について考えていただく機会の提供に努めています。

*1 消費財の国際的な業界団体。当社はTCGFのJapan Sustainability Local Groupの一つである「パーム油ワーキンググループ」に、2017年度の設立当初から参画。
*2 SDGs for School：https://www.fujioilholdings.com/sustainability/social/community/

"VOICE" OF THE PERSON

ステークホルダーの"声"

カルビー株式会社
購買本部
購買部 部長
供田 陽介様

当社は「2030年 認証パーム油100%使用」の目標を掲げ、RSPOにも加盟し持続的なパーム油の調達を目指しています。当社からサプライヤーへ改善活動を促す重要性を認識し、不二製油グループ様の活動を調査・支援しています。原産地の環境や人権・労働問題が深刻化する中、同社は現地NGOとともに改善支援活動を強化され、当社にも継続的に情報を開示していただいています。RSPO認証パーム油の使用拡大を目指す当社にとって信頼ある重要なパートナーです。

カカオのサステナブル調達

カカオ・チョコレート産業に関する社会課題

小規模農家が大半を占めるカカオ生産地においては、貧困に起因する児童の教育や労働に関する諸問題、気候変動による生産地への影響、知識や資材不足による生産効率の低さ、栽培地拡大のための森林伐採といったさまざまな社会課題があり、これらの解決のための複合的な取り組みが必要です。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響からカカオの需要の変化が見通しにくくなる中、サプライチェーン上で対処すべき課題も複雑になってきています。

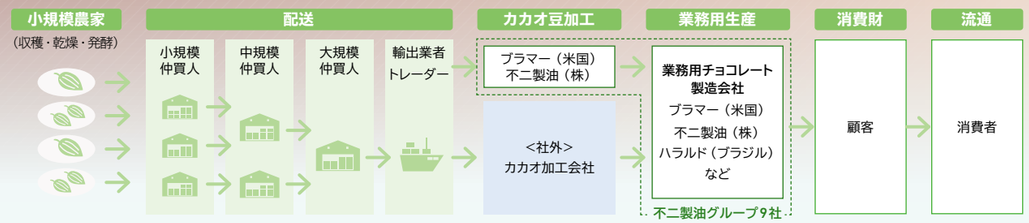
グループ調達方針と中長期目標

2018年8月公表の「責任あるカカオ豆調達方針」で、カカオサプライチェーンに関わるさまざまなステークホルダーと協力しながら、事業全体を通じて持続可能な方法で生産されたカカオ豆調達を目指すことを約束しています。

コミットメント

- 農家の生活環境改善
- 当社サプライチェーン上の児童労働の撤廃
- 森林破壊の防止と森林の保全

カカオ豆のサプライチェーンと不二製油グループのアプローチ



ガーナ、コートジボワール、エクアドルなどのカカオの生産地において指摘されるさまざまな社会課題の解決の一つの手段として、農家支援プログラムの拡大を進めています。2020年には、ブラマーが2007年からコートジボワールで取り組んできたプログラムをガーナで展開し、日本市場などへ向けた取り組みを開始しました。農家の所得向上や児童労働撤廃、植樹による森林再生やアグロフォレストリー、サプライチェーンの透明性の向上などに取り組んでいきます。

社会課題	アプローチ	取り組み概要	対象地域
地球環境	植樹による森林再生	・森林破壊の抑制と植林活動 → PICKUP ・World Cocoa FoundationによるCocoa &Forest Initiative（CFI）による取り組みとしてブラマーを通じて植林などに貢献	グローバル（特にガーナ、コートジボワール）
人権	CLMRSの導入と児童への教育機会の提供	・コミュニティ支援プログラムにおける、CLMRSの導入 → PICKUP ・児童への教育機会の提供を目的としたブラマーのL.I.F.T. プログラム*による、コートジボワールにおける小学校の建設や教材の提供	西アフリカ（特にガーナ、コートジボワール）
地球環境 人権	コミュニティ支援プログラムの実施	・プログラムに参加する農家に対する、GAP（農業生産工程管理）の導入、さまざまな種類の緑陰樹の苗木の提供、コミュニティ主導での家庭環境調査を通じた児童労働撤廃の啓発などの直接支援を行う取り組み	グローバル（特にガーナ、コートジボワール）

* L.I.F.T. プログラム：Livelihood Infrastructure Food Technology（暮らし、インフラ、食、テクノロジー）プログラム

取り組みに関する課題認識

- 農業技術指導や植樹などによる農家の経済的自立への支援と、児童への教育の機会提供および児童労働撤廃に寄与することが重要。
- 小規模農家が多数を占めるカカオ豆の生産において、サプライチェーンが複雑で、トレーサビリティを高めることにも困難が伴う。
- プログラムの実施地域においては児童労働の把握に努め、その原因の一つである所得向上に向けた農業指導なども実施するが、コミュニティとの話し合いや理解を得るためには時間を要する。

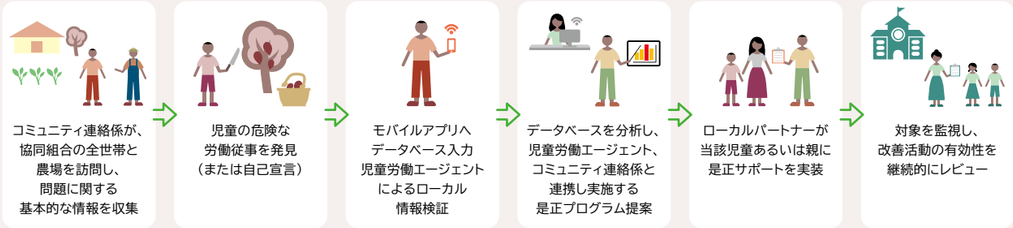
「カカオのサステナブル調達」についての取り組みの詳細は、サステナビリティレポート2021をご参照ください。
→ https://www.fujioilholdings.com/sustainability/social/cacao/

PICKUP

児童労働の撤廃：児童労働モニタリングと教育機会の提供

児童労働の問題について、CLMRS（児童労働監視改善システム）の導入と教育機会の提供のサポートを主眼に置き、取り組んでいます。アフリカにおける児童労働問題は、家庭の貧困や通学の困難さ、家族経営農家での手伝いなどに起因しており、児童労働者数の把握が難しいのが実情です。当社グループでは、ガーナとコートジボワールで展開しているコミュニティ支援プログラムにおいて、CLMRSを導入しています。

CLMRSの仕組み



森林破壊の抑制と植林活動

2021年はNPOのOne Tree Plantedをパートナーとして、ガーナ西部のカカオ農園とその周辺地域を対象にさまざまな種類の緑陰樹の苗木10万本を植樹します。このエリアは広範囲にわたる森林破壊により現地の生物多様性が失われています。また温室効果ガス排出量の増加により、地元コミュニティや小規模農家は、洪水の増加、干ばつなどの影響を受けています。

カカオ農家にさまざまな種類の苗木を配布し地域に植樹することで、生物多様性を高め、土壌改善に貢献します。農業従事者は、農園に植樹後に収穫した果実やスパイスを販売し利益を得ることができます。この取り組みはアグロフォレストリーともいわれ、植林を通じて、農家の生活向上にも貢献することができます。

ステークホルダーとの対話と市場創造

顧客との共創

ブラマーでは、顧客との協働により各コミュニティでのコミュニティ支援プログラムを展開し、プログラム豆を拡販しています。日本においてもサステナブルなカカオ・チョコレートの市場拡大を図るため、プログラム豆の取り扱い拡大に向けた顧客との具体的な対話を進めています。

カカオ業界との共創

ブラマーは世界カカオ財団（WCF）の設立メンバーであり、現在も理事として参画しています。「Cocoa Action（カカオアクション）」「the Cocoa and Forests Initiative（カカオ&森林イニシアチブ）」をはじめとした、世界カカオ財団の主力プログラムへの参画を通して、リーダーシップを発揮しています。

"VOICE" OF THE PERSON

顧客の"声"

Vice President of Global Sustainability and Compliance Costco Wholesale Corporation
Ms. Sheri Flies

Costcoとブラマーは、サプライチェーンパートナーのOlam社とともにSassandra Cocoaというユニークで持続可能なカカオ豆についてのパートナーシップを結んでいます。コートジボワールで2009年から展開しているこのプログラムは、トレーサビリティが確保された高品質の製品提供、農家やコミュニティの利益と生活の向上、および環境へ配慮した活動の導入を目的とし、独立した第三者機関であるIntertekによる監査を毎年受け実施しています。プログラム豆はブラマーによってチョコレート原料になり、当社の「Kirkland Signature」チョコレート製品に使用されています。

Sassandra Cocoaプログラムは大きな進歩を遂げてきました。同プログラムの取り組み領域は広く深く、当社の最も強力な責任ある調達プログラムの一つです。プログラムの10周年と、ブラマーおよびOlam社とのパートナーシップを祝えることを嬉しく思うとともに、今後も強力なパートナーシップを継続していきたいと思っています。

Sassandra Cocoaプログラム詳細：https://www.costco.com/sustainability-cocoa-coffee.html

2 信頼を支える“技術”

不二製油グループのビジネスは、私たちを信頼し、ものづくりを“共創”していただける数多くのお客様に支えられています。そして私たちは、日々の顧客とのコミュニケーションにより、課題やニーズを把握し、さまざまな“技術”を用いて解決を目指します。これらの活動は顧客満足度の向上につながり、結果としてお客様がお困りの際は声をかけていただけるという循環を生み出しています。長年にわたり、多様な業態・業種で築き上げた顧客基盤と信頼関係は、当社グループの成長の源となっています。

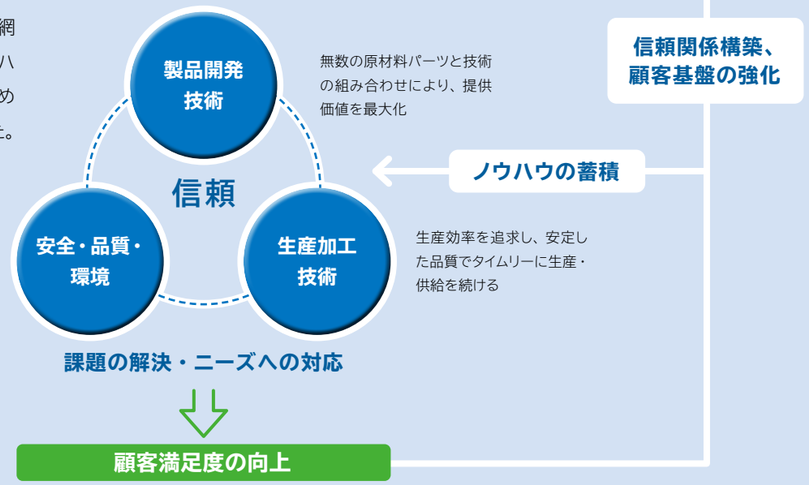
顧客の困りごとを解決することが自社の成長に

顧客の課題・ニーズを把握

多様な顧客網	業態	リテール 外食・カフェ	スーパー 百貨店	コンビニ 生協	
	業種	パン 洋菓子 健康食品	流通菓子 冷凍食品 惣菜	飲料 冷菓 食肉加工	育児製品 即席麺 水産練り製品　など

多様な“技術”で対応

多様な業態・業種で築き上げた顧客網と、広範な市場への展開で得られたノウハウを集約し、消費者価値を実現するためのさまざまな“技術”力を磨いてきました。



消費者への提供価値を実現する営業活動

担当者の“声”

不二製油株式会社
営業部門 営業第二部
谷山 太一

私は大手コンビニエンスストアを担当しており、主にパン向けの製品提案を行っています。提案時には、消費者に提供できる価値は何かを明確にし、不二製油の製品を使うことで、それを実現できるよう心がけています。そのため、普段から「顧客やその先の消費者が何を求めているか、この先起こる変化は何か」という視点を大事にしています。

近年感じる変化は、社会課題と顧客のニーズがリンクしてきている点です。例えば、廃棄ロスを減らすために、より日持ちするように工夫された製品のニーズが高まったり、地球環境に配慮した原料やスキームづくりが求められたりしています。これまで以上に顧客や消費者に密着し、社会課題を見据えた視点を持つことで顧客や社会への貢献を果たしていきたいです。

製品開発技術

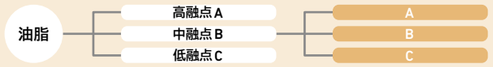
無数の原材料パーツと技術の組み合わせにより、付加価値を高める力

油脂の硬さを分けることで、さまざまな物性の油脂を生み出すこと、そこに風味を作る上で重要な原材料と技術を組み合わせ、バランスよく組み立てていくことがコア技術です。このコア技術により、パームや大豆という植物性の主原料の持つ可能性を最大限に引き出すことで付加価値を高め、幅広い製品群を作り出しています。各原材料や配合、製法の無数の組み合わせによって、製品を通じたさまざまな顧客価値、消費者価値を提供しています。

例：チョコレートの製品開発イメージ　チョコレートにとって重要な「機能性」と「おいしさ」を支えるのが、油脂を「分ける」技術と各原材料を「組み立てる」技術であり、顧客の用途に最も適した製品を提供しています。

分ける（分別・分画）　**原料素材をパーツに分ける**

- 油脂の硬さを分ける工程を分別と呼ぶ。各パーツが持つ特徴を活かし、ニーズに合致した油脂を生産。
- 生産工程で発生するさまざまなバイプロ*を、無駄なく有効活用することでコスト優位を構築。



* 主製品を作る工程で発生する副産物を指す。例えば、分ける技術により「融点A」を生産する際に、生産工程で発生した融点B・融点Cがバイプロとなる。

組み立てる　**無数の原料パーツや技術を組み合わせて加工**

- 各素材を組み合わせ、風味や物性のバランスを考慮し配合を決定。
- 大型スケールの工場ラインで製造した際の再現性も考慮。

顧客への提供価値の最大化

中間素材メーカーである不二製油にとっての直接のお客様は、食品メーカー・製菓製パン店・外食・コンビニのベンダーなどであり、私たちの製品が直接店頭に並ぶことはありません。しかしながら、お客様がより魅力的な商品を生み出すために必要な製品技術や、市場トレンドを反映した最終商品を提案することで、提供価値の最大化を目指しています。

顧客との共創により新たな価値を創出

価値提供により、お客様に頼られる存在に

担当者の“声”

不二製油株式会社 開発統括部門
市場ソリューション第一部 デザート課 課長
原田 江里子

目の前の課題を解決するだけではなく、消費者ニーズの変化を見据えた、未来の価値を創造していくことを目指しています。それらを実現するための魅力ある最終商品の提案と、その商品を作るために適した製品を生み出すこと。これが私たちならではの価値提供の方法だと考えています。

最近では、タンパク質摂取のニーズの高まりが今後菓子業界にも拡大していくことを予想し、お客様の製造工程における作業効率を高め、かつ食感を改善できる大豆たん白製品を開発しました。おいしく、しかもタンパク質リッチな菓子の展開が可能となり、お客様にもご満足いただいています。 これからも心と体に嬉しい食や、さまざまな課題解決につながる食を、とびきりおいしく提案することで、お客様に頼られる存在であり続けたいです。

生産加工技術

業務用素材メーカーとして安定生産・供給を続ける

不二製油は業務用の素材メーカーであり、何トン、何百トンといったスケールのオーダーに対しても、常に安定した品質の製品を、遅延なく供給することが求められます。研究室や小規模設備での試作品と同じ風味・物性の製品を生産するために、日々製造条件のコントロールを行う技術力が不可欠です。

熟練の生産従業員による生産技術の伝承やTQM（Total Quality Management）活動を通じて、安全性はもちろんのこと、生産性改善・人材育成を行い、各従業員のモチベーション、スキルを高める風土を醸成しています。また、販売部門とも連携した綿密な生産計画により、生産ロスを最小限にとどめた効率的な生産を目指しています。

各生産工程における品質の振れを最小限に抑えるためのノウハウを蓄積

現場の作業工程改善により生産性向上を図るチームビルディングと発表会

生産現場にノーはなし

担当者の"声"

不二製油株式会社
チョコレート事業部門
チョコレート生産部 課長
大澤 裕樹

生産現場では、お客様の求める品質の製品を、必要なタイミングで無駄なく生産することが求められます。そのために注力しているのは、生産効率と緊急対応力の向上です。製造工程における稼動ロス低減に向けた取り組みとして、各係の活動報告と好事例の横展開を毎月行い、全体のレベルアップを図っています。

時として、機器や品質のトラブルが発生することがありますが、普段から各機器の構造や目的を理解した上での操作を徹底することにより、各メンバーが柔軟に対処できる能力を高め、影響を最低限に抑制しています。

「生産現場にノーはなし」をモットーに、できない理由ではなく「どうすればできるか」を全員が一丸となって考えることを大切にしています。

安全・品質・環境

食の安全・品質

原料調達から生産・出荷までの各工程において、製品やその製造 プロセスが不二製油の規格・基準をクリアしているかをチェックする品質管理部に加え、法令の遵守および「顧客視点で高品質な製品であるか」を検証する独立組織として品質保証部と安全品質環境監査室を設置し、食品安全に関わる製品・製造 プロセスの横断的な検証や、委託加工先に対する品質インスペクション*を実施しています。

また、月に一度「安全・品質・環境会議」を開催し、関連部門による問題点や課題とその対策の報告、情報共有を行うことで問題の再発防止に向けた横展開を図っています。

* 品質インスペクション：品質の維持および向上のための検査・査察

食品安全分析センター

安全・安心な製品の供給のために

担当者の"声"

不二製油株式会社
生産技術部門 品質管理部 部長
坂田 哲夫

お客様にお届けする製品の最終チェックは私たち品質管理部が担っており、製品の安全供給、事故の未然防止をミッションにしています。そのために日々、製品の品質管理、各生産拠点の工程管理に注力しています。

例えば、規格化が難しい「風味」においても、検査員の厳しいチェックによる判定や、お客様の用途に応じた検査項目を設けることで、安心して使用していただくことを目指しています。

また、生産部との連携による製造工程の検査精度の向上や、迅速な分析体制の構築により、不良品発生の防止だけでなく生産性の向上にも貢献しています。

環境

当社グループは社会の一員として、経済的価値を創出するだけではなく、地球環境に配慮した事業活動に取り組むことが必要であると考えています。

環境基本方針に基づき、「環境ビジョン2030」ではCO_2排出量・水資源使用量・廃棄物量の削減、資源リサイクルの目標を定め、エネルギー使用量の少ない新設備の導入や、生産処理水の再利用の仕組みの構築を進めています。

日本においてはエネルギー管理統括室を設置し、技術開発部門をはじめ各部門との連携を強化することで、環境負荷を低減させた生産技術への取り組み等を加速していきます。

環境負荷の低減を専門とする技術開発部門（エンジニア）が生産ラインを設計

"技術"の基盤をグローバル事業に活かす

当社はグローバルに事業拡大を進めています。嗜好や商慣習は各国各様であることから、ビジネスの展開は各エリアにおける執行を強化する一方で、グループ全体の競争力を強化する事業基盤構築を進めています。

日本における事業発展の中で培ってきた製品開発技術・生産加工技術・安全と品質、環境の技術は、価値創造の源泉となる基盤の一つです。グループ全体のネットワーク形成や、支援による取り組みをグループ本社が主導し推進しています。

C"ESG"O部門の支援による安全、品質、環境に関するマテリアリティの施策推進

C"ESG"O SECTION
⇨ P76

世界のR&D担当者のグローバルネットワーク強化

CTO SECTION
⇨ P72

日本のスペシャリスト派遣によるグループ会社の生産性向上等の支援

CSO SECTION
⇨ P52

3 提供価値と事業機会 ～Plant-Based Food Solutions～

2017年、不二製油グループの製品開発・事業展開の方向性のコンセプトとして、「Plant-Based Food Solutions（PBFS）」を打ち出し、植物性食品素材によって社会が直面する課題を解決していく決意を表明しました。

社会の変容に応じた顧客・消費者へのさらなる提供価値の創出

Plant-Based Food Solutions

これまでの価値

不二製油グループは創業以来、パーム、カカオ、大豆といった植物由来の原料を主に、お客様や消費者の困りごとを解決する製品を提供してきました。

各国が経済成長する時代において、物質的な豊かさが求められていく中では、「本物」に代替するばかりでなく、そこに本物にはない価値を加えた「新しい本物」を作り上げることで、最終商品のおいしさやさまざまな機能性付与、品質の向上を実現し、食文化の発展や変容に寄与してきました。

＋

これからの価値

不二製油グループはこれまで創出してきた価値に加え、これからも社会に貢献できる価値の創出を目指します。

現在、世界中でさまざまな人権・地球環境などへの課題意識が高まり、サステナブルな社会の実現に向けた取り組みが進められています。また、食生活や人口動態が変容する中で、生活習慣病の改善、高齢化による健康寿命の延伸など、食と健康はますます切り離せないものとなってきています。

不二製油グループは植物性原料の持つ力を最大限に引き出すことで、「サステナブル」かつ、心と体の健康に寄与する「おいしさ」によって世界中の消費者や社会に貢献していきます。

人が生きていく中で欠かすことのできない栄養源である「油脂」「たん白」。さらにそれらをおいしく提供する「チョコレート」や「乳化・発酵」。当社グループの主要4事業やそれらの技術を組み合わせた製品を創り出すことで、事業機会を捉え成長していきます。

・おいしさ（心と体の健康）　・サステナブル

・おいしさ　・食の多様性　・利便性　・機能性　など

過去　現在　未来

Plant-Based Food Solutions

私たちは、植物原料がもつ無限の力を最大限に引き出し、おいしくお届けすることで、
人も地球もより健康になれる世界を実現します。
世界的な人口増加、健康志向の拡大、高齢化への対応といった
社会が直面する課題を植物素材を用いた食の力で解決してまいります。
時代の半歩先を読みそれぞれに価値ある答えを創り出す、それが私たちの決意です。

これまでの価値

油脂の技術をベース → 業務用チョコレート

チョコレート用油脂・業務用 チョコレート

ココアバターと同等の物性を再現することで、安価で安定的なチョコレートを供給するにとどまらず、油脂技術をベースとした機能性を発揮したコンパウンドチョコレートにより、チョコレート使用食品の多様化に貢献してきました。 ⇨ P27・61

植物性油脂

油脂の技術をベース → 乳化・発酵素材

植物性 クリーム・チーズ様素材など

乳原料の代替や機能性付与による低コスト化や作業性向上、消費期限の延長、店頭での劣化防止によるおいしさの維持などにより、販売形態の多様化、品質向上に貢献してきました。

大豆加工素材

動物性タンパクの代替、大豆の持つ良質なタンパク質に注目

大豆たん白素材

創業当時より大豆が持つ良質なタンパク質に着目した用途開発を進め、肉や魚の一部代替として食感や機能性などの品質改良機能を付与。また、さまざまな形態・機能性を付与し、植物性のタンパク質をより摂取しやすく加工することで、健康な食生活へ貢献してきました。

水溶性大豆多糖類

大豆たん白素材を生産する加工で発生する「おから」の高度利用用途であり、酸性乳飲料の沈殿防止や、麺類・米飯の結着防止剤として多様な生活スタイルに応じた食品の利便性の向上を実現してきました。

消費者価値	・おいしさ ・食の多様性 ・利便性
顧客価値	・物性改良による機能性付与 品質安定、品質改良 ・安価・安定供給

社会背景　・経済成長、物質的な豊かさの追求　・食文化の発展、変容

これからの価値

技術の関連が深いセグメント　植物性油脂　業務用チョコレート　乳化・発酵素材　大豆加工素材

健康チョコレート

チョコレートのおいしさを活かし、幅広い消費者に喜ばれる健康チョコレートの展開を強化しています。タンパク質の摂取を強化する高タンパク質タイプや、ポリフェノールなどさまざまな健康成分を多く含むタイプなど、製造工程における徹底した品質管理が可能な当社グループならではのラインナップを拡充しています。

➪ P63

シュガーフリーチョコレート

肥満や生活習慣病の予防のため、糖の過剰摂取防止へ世界的な注目が高まっています。当社グループは従来のおいしさを保ちながらも、砂糖を低減したチョコレートを展開し、おいしさと健康の実現を目指しています。

➪ P65

デイリーフリーチョコレート

ミルクチョコレートには乳原料が多く使われています。将来的な乳原料の供給不足や、多様な食・消費の嗜好に応えるため、乳原料不使用で、おいしさを保ったデイリーフリーチョコレートの開発を進めています。

低トランス脂肪酸油脂

トランス脂肪酸の大量摂取による心疾患発症のリスク上昇が報告されています。当社は需要の高まりに応える供給体制を構築するなど、低トランス脂肪酸油脂の展開をグループ全体で加速しています。

➪ P61

減塩などに寄与する健康油脂

溶けにくい物質を分散させる技術を活用し、塩味、スパイス感など含め辛味、酸味を強く感じさせる効果を付与した油脂を開発しました。これにより、おいしさを維持したまま調味料の使用量を減らし、減塩することが可能です。

安定化DHA・EPA

DHA・EPAは風味劣化が早く、認知機能の低下抑制や中性脂肪低減等の効果が認められながらも用途が限定されるという課題を有していました。当社が開発した安定化技術は、さまざまなシーンで手軽にDHA・EPAを摂取できる可能性を広げ、超高齢化が進む社会での健康寿命の延伸に貢献します。

乳化・発酵の基礎研究強化

基礎研究の研究人員の配分強化や、留学などを通した最先端の乳科学・技術の取得を進め、食のおいしさのキーとなる乳化・発酵の技術基盤を強化しています。

➪ P75

植物性食品素材製品の拡充

動物性原料を使わず、大豆やその他の植物原料によるチーズ素材やホイップクリーム、豆乳クリームバターなど植物性の製品を拡充し素材の選択肢を広げていきます。

➪ P67

タンパク質摂取強化

タンパク質の摂取不足は免疫機能・運動能力・認知機能の低下を引き起します。当社グループは溶解性や食感の改良などにより、植物性タンパク質を摂取しやすい形に加工し世の中に提供しています。

➪ P69

大豆以外の多糖類素材

サラっとした飲み心地の低糖タイプなど、世界に酸性乳飲料のおいしさを広げるグローバル戦略を主軸に、欧州に新たな生産体制の構築を進めています。

➪ P69

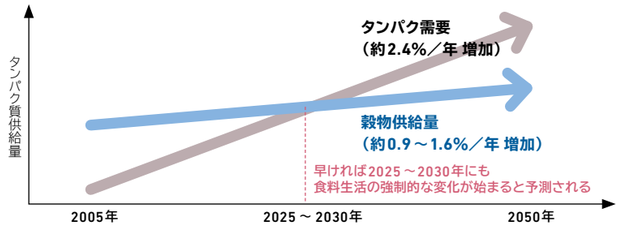
植物性タンパク素材の探求

大豆以外の植物性タンパク素材の探求を進めています。スポーツ栄養や糖尿病、脳と体の健康など、さまざまな健康に寄与する機能性タンパクやタンパク質から抽出される機能性素材について取り組んでいます。

植物性食品素材の拡大

世界の総人口は2050年には約100億人になると予測されており、この人口増加を賄うタンパク源が枯渇すると考えられています。

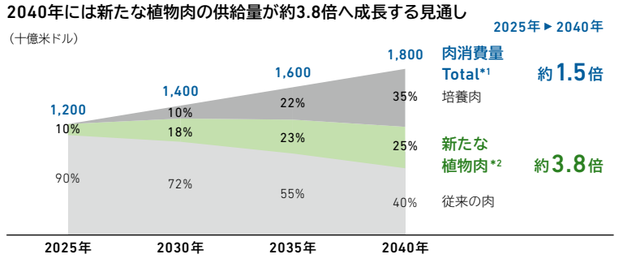
タンパク質の需要と供給



出所：ちとせ研究所の2020年12月 データをもとに当社再編

タンパク質の供給量を拡大するためには、気候変動への影響や環境負荷の観点から、畜産業に頼るだけではなく植物性、培養肉、昆虫食などの代替タンパクへの置き換えが必要であり、植物性食市場は拡大が見込まれています。

世界食肉消費量：
2040年には新たな植物肉の供給量が約3.8倍へ成長する見通し



*1 数字は百億の位を四捨五入しています。
*2 下記引用レポートにおいて、高度な製造工程により、従来のヴィーガン・ベジタリアン向けの製品よりもより食感・風味が肉に近い植物性の肉代替品を定義しています。
出所：A.T Kearneyのデータをもとに、当社再編
When consumers go vegan, how much meat will be left on the table for agribusiness? (kearney.com)
copyright A.T. Kearney, 2020. All rights reserved. Reproduced with permission.

不二製油グループは、人口増加や気候変動といった社会課題を背景にした植物性食市場の拡大に対し、植物性食品素材によって心と体の健康に寄与する「おいしさ」で貢献することを目指しています。広く一般的に植物性食が普及するためには、植物性食を当たり前のものとして食生活に組み込んでいただくことが必要です。日頃から慣れ親しんでいるメニューが実は植物性食で、しかもおいしかった！という体験と驚きにより自分事としていただくため、「おいしさ」「驚き」「体験」が消費者と植物性食をつなぐキーワードだと考え、取り組みを進めています。

➪ P70

2050年
社会像イメージ

食の量と質の偏在が解消され一人ひとりのWell-Beingが向上する社会

「将来を支える新規技術の開発と新規事業の推進」

➪ P75

気候変動対応
環境負荷低減

食の偏在

一人ひとりの
Well-Being

・おいしさ（心と体の健康）　・サステナブル

・サステナビリティ志向（人権・環境）　・人口動態の変化と食の偏在　・多様な健康問題